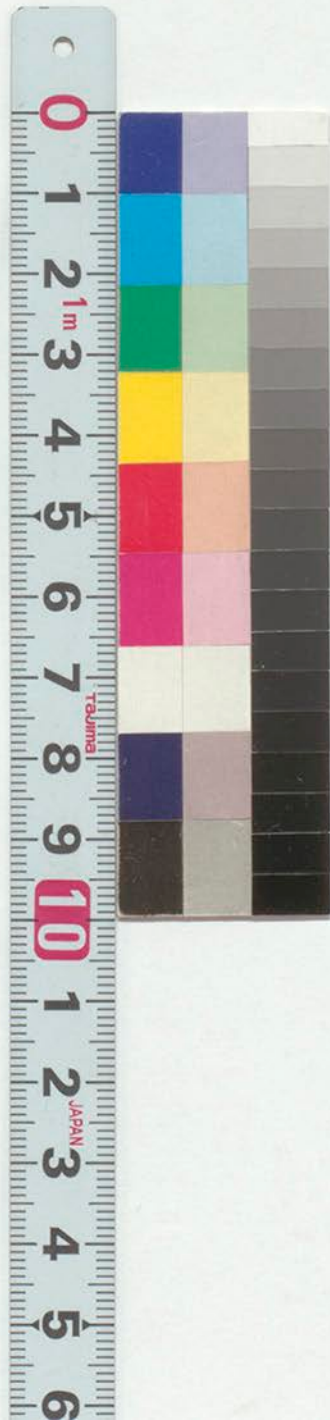


百人一首像讚抄

下





右中納言みぎなかつなごん 左中納言ひだりなかつなごん
 右中納言みぎなかつなごん 左中納言ひだりなかつなごん

右中納言みぎなかつなごん 左中納言ひだりなかつなごん
 右中納言みぎなかつなごん 左中納言ひだりなかつなごん

右中納言みぎなかつなごん 左中納言ひだりなかつなごん
 右中納言みぎなかつなごん 左中納言ひだりなかつなごん

實方みかた 實方みかた
 實方みかた 實方みかた



暖松

おと

久や

ふたの

三

17

子

易經

五

[illegible]

了んふと、さのそふと、いふ実方、おれと、同村の
 越上へゆくは、御下て、おれ、の、道と、あ、く、打と、
 まれ、と、さ、ね、ね、と、思、と、さ、く、た、あ、さ、と、さ、と、
 あ、け、と、さ、い、つ、ある、家、お、れ、冠、お、い、お、ん、と、
 かん、さ、方、あ、らん、さ、あ、く、さ、く、さ、く、さ、く、
 さ、い、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、
 れ、と、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、
 ま、れ、と、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、
 て、今、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、
 ま、で、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、
 花、あ、り、さ、く、さ、く、さ、く、さ、く、

教原通信抄
あはれ、の、う、ち、の、あ、は、れ、

恒使云、男、母、の、恒使云、女
かん、さ、く、さ、く、さ、く、

師補
あ、は、れ、の、う、ち、の、あ、は、れ、

恒使云
かん、さ、く、さ、く、さ、く、

系、松、公、性、も、大、政、大、臣、乃、亮、臣、一、位、
 師、補、云、九、男、母、
 武、義、も、教、通、邦、
 女

通信
あ、は、れ、の、う、ち、の、あ、は、れ、

左中納言、位上、一、下
 女、恒使云、女
あ、は、れ、の、う、ち、の、あ、は、れ、

正徳六年、年、二十三、歳
あ、は、れ、の、う、ち、の、あ、は、れ、



張栻

つれづれ

三

物

子

子
 子

ら

7
3

於
四

の
ふ



何れも女乃りては中よりて情をめて情をうけかくこ
て新に首のまゝり

[illegible]



新古今
うたれ
ゆき
ふ
か
か

[illegible]

遊乃其の
 久し
 あり
 夜
 てあ
 くれ

後推也

ありき

市

五

子

三

三

吳

人

之

卷之四



何れもよくある男の如くはつてゐる。で、いふところ、
よき所とある。是の席、奇にあつて、席、奇にあつた上、乃ち
も、奇なり。用、小、この色、得、見、も、い、で、さ、よ、い、ん、あ、び、り
乃、席、ち、あ、つ、大、殿、く、の、と、背、乃、奇、乃、あ、ち、て、さ、さ、る
い、席、さ、の、心、も、堪、あ、つ、べ、い、て、い、さ、う、乃、ち、見、さ、ん、が、
さ、う、さ、う、下、扱、い、奇、の、心、さ、う、さ、う、あ、ち、て、つ、ふ、現、
い、さ、ん、と、あ、ち、で、い、は、れ、月、さ、の、さ、う、い、さ、ん、と、い、て、
い、で、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、大、殿、乃、い、さ、う、乃、ち、い、は、れ、
あ、ち、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、
い、は、れ、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、
あ、ち、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、
あ、ち、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、さ、う、

大江山

33

の

三城

三

去

之

乃

一



知者おれおれや係留おどて丹後國は仍り
 多る病もやこれ奇合あり多るいおやう肉付あ
 くと紙中紙を定むればがよりぬくぬくでく
 奇ひくせは病あふ丹後國を治りてんや
 治りひきうでふやふりとあやばふらんあ
 くらふまくとくら紙をきりてはあはとあり
 毛いおやアダ奇のよきい母の和歌歌ふよ
 まむくま奇おまるといふのほくら紙くら
 くとくおひくら紙を紙をうくる雨よめるお
 あり奇よまぬいひて乃難とされやうた
 いとふと紙かくよりぬよりて乃難ととん

[illegible]

何れか一糸の端の四角ありて八を極とて入て
まづりたりと云ふはふ物なれども花と云ひて
糸と云ふと傳せられければよくと云ふに云ふのこ
ろは、何れあるふと云ひあはれと云ふは八を極と
てと云ふは、ふと云ふは、ふと云ふは、ふと云ふは、
何れ乃ち極ありて、ふと云ふは、ふと云ふは、
何れ乃ち極ありて、ふと云ふは、ふと云ふは、
何れ乃ち極ありて、ふと云ふは、ふと云ふは、

自入下



清少納言
後、文輝り女と云く
深き文が源氏と云く
一、中宮の女房
枕草子うき人をも乃
後の白玉乃色よ
とりおれりてと云く

新古今
何ぞ小大納言を物ぐり
あつてはつるに



た京た吏通雅 申内太公 伴用云男
 ぬる人 細云重光ぐ女

伴用 通雅 此三位を急ぐ

女子 上東門院女房より
 叙有 後撰巻四

奇く夜
 何れお伴用乃 命えさるる
 のかりく 後々人子 悲びるる
 々々おのやけさるる けりてまのりあめ
 つけく されぬ 悲びるる かなよびありふたれ



後撰



今い
 思ふ
 人
 子

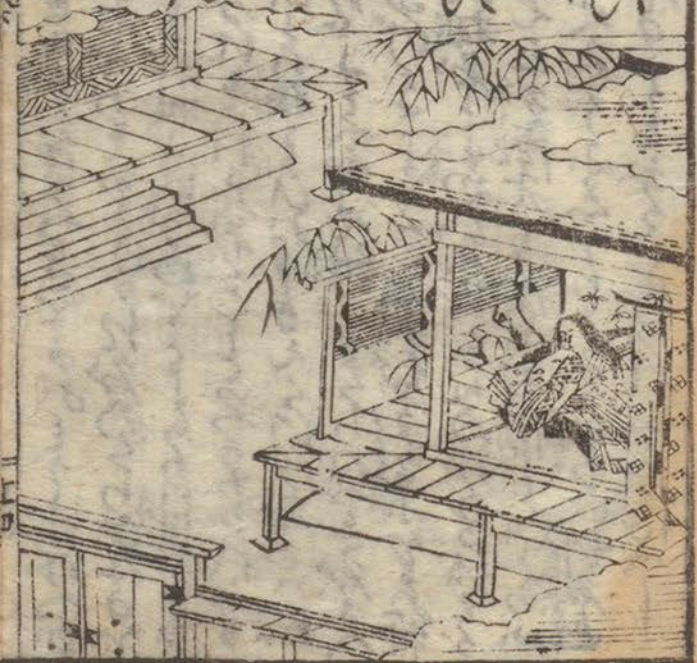
百人

二六

桐損 先程ふ祥
 入道一子官女房が石
 いはば後武蔵桐損宮
 大いふ武蔵桐損宮
 いはば桐損一子
 母能くも慶長保胤女
 奇くは
 年回裏乃奇合
 るといふらんあな
 くれといふらんあな



ねえ
 かきぬ
 神
 あれ
 意
 くらえ
 名



分彙

あふと

之

山

三

卷之六

何

五

七



何事大業乎と云ひのど梅乃花乃さびし
多る紙をくま成とあり大雀の心春乃入る
運乃さびしと云ひくあめりて秋乃入る
や妻入る唯乃さびしと云ひ秋入る運乃さ
しとの是い唯乃さびし雨あるがさびしのぬ
極小枝のか月づり乃さびしと云ひさ乃のな
より外小さるさびしと云ひ思ふ祇ぞたよりお
小さるさびしと云ひくらふ又花を我よりお
小さるさびしと云ひさるるありさるるは
た小あわれと云ひさるるは彼より小一茶院乃
作流白河院沖れりやと三井乃名は渡乃内

子集

藝乃

鳴る

三

五
枕
下

27

3

人

知

1



何ふ二月より五月あつた二条院あつて
 くつてありあつてはるる五月改めありあ
 てはるるあつていふとてたゞ忠告されはる
 といひあつたもれ下よりいふとてはるる
 といふとあり

[illegible]

ちか／＼やうに後乃家母のつれさび／＼とて涙
 小成やぐま／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて
 々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 とか時おの／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて
 乃／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて
 房／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて
 わ／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて
 い／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて
 席乃／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて
 くる／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて
 くる／＼とてとるねと／＼とて侍方／＼とて

三條院 偉居貞 冷泉院

第二子 立位五年

母 德皇大后 御子 第三

系 入通 攝政 西宮 公女

天曆四年 正月 三 日 降 地

寛和二年 七月 十六 日 表 宣

寛弘八年 三月 二 日 位

正月 九月 日 讓 位 寛仁元年 四月

九月 日 生 出 丙子 月 九月 日 崩 御 年 一 歳

村上天皇



冷泉院 一条院 二条院

神田法師

俗名永徳 長門ちまき号吉尊

都入通肥後寺元徳子まき
梅流兄云 奈ふれ 鳩取丸

孝い中 安太雄 吉徳

純行 忠孝 元徳 純因

い徳殿い純小通小徳云まき一徳
天徳殿い純小通小徳云まき一徳

い新子くまどあきつるまき由川の雲の青のう
土橋の橋板乃るまきあきつるまき一徳



法如まき

わい

足ひあ

乃の

い

系も

河田

川

あり



永承四年(1133)春、新合、くさい、新、か、る、る、
 あ、只、時、高、乃、系、高、く、た、る、後、と、思、合、く、見、ゆ、る、
 あり、あり、く、く、と、も、と、も、と、も、と、も、と、も、と、も、
 お、上、旨、乃、高、新、ある、一、要、う、乃、新、と、い、事、代、乃、
 人、や、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 通、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 あり、ある、一、と、い、新、い、古、今、人、丸、乃、新、小、
 立、回、り、お、系、と、ある、新、い、の、と、ある、宗、田、敷、ある、
 い、れ、あ、る、一、と、い、新、内、裏、分、合、の、内、乃、方、あ、て、出、
 来、り、と、り、あ、つ、る、来、る、と、と、一、新、使、使、あ、る、と、と、

良選法師

又祖不詳 祇園寺

任大原 一休

母実方 妙法寺

如房 白菊と云也



懷素草

丁巳

五

あは

七

お
ぢ

あふれ

子



大徳云 經信 中徳云 源通方男
 廿八 源國盛女
 字 天白

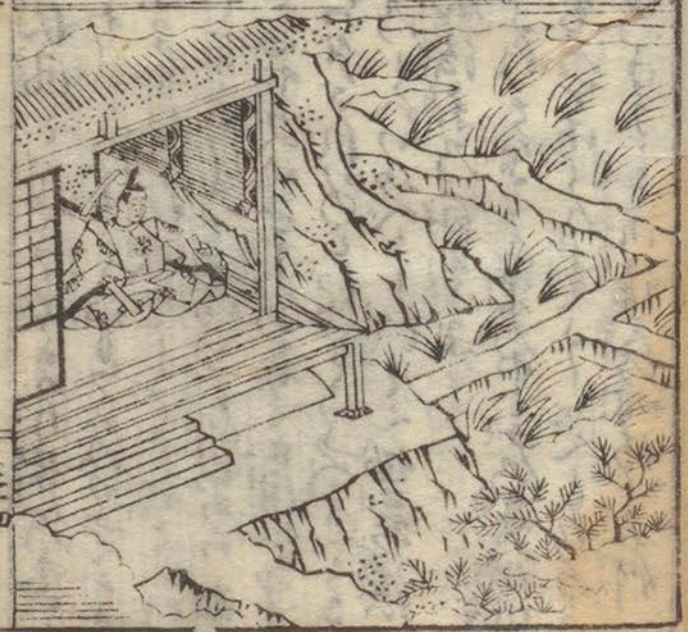
一系 武平 第五武平

雅信 中徳云 指嶋氏 平五二
 通方 經信 信枝 大田言

實信 六系 友吉
 俊賴 俊惠 号 太史



金系 傳
 夕 ざ れ い
 つ 田 乃
 い あ ん
 ぼ ぎ て
 め 乃
 ま る ち ぶ
 あ ら 風
 そ ち



いなり田舎乃秋風とふりより声乃もや
はるさむくしわづらふく体ころみあこも
門四乃編みふたされの秋風そよくと吹とれ
いまをわぶきやぞわの風情ともいなり毎
夕乃心懸ぐさや又ゆきれのあと云々あり
魚しきされの夕されものとてつとづーと
され乃夕され乃といつづくとて世に無
私なる至窮法亦乃百々あり
夕されの教といふものぞ人衆あるとて是れ
と知れぬ自らも乃とあらんとてうろくとあら
去ありしふ處乃よりあらん道尺の時なり何

夕なれぬ教といふものぞうへ業をわたりて
 とおふれふ月音乃とあんなどてううくとあ
 去りてふあふりふとてあ備尺の時なり何

子内親王

記傳身重難公為

嘉永紀行

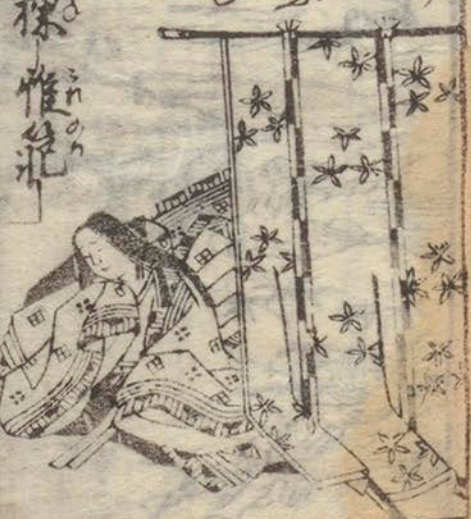
△とくづりよひえ
横濱とくづりよひ

振武天

葛原親平 立棟 惟能

前望マゼ 真我マゼ 親依マゼ 行義マゼ 武義マゼ 肥田マゼ

經方 女 紀條あり金葉月あり 紀條とあり
日あり



[illegible]

法性入通前因自大政大臣忠臣云

抄改案曰大政入長一倭法為高親
知足院案曰一男安系有長長房女

一、壹、明、白、
今、治、漢、白、

京極殿白

道長
賴通

累次推僊

母吳平氏妻

法茶園自

知是院富家殿

師通

聖天子

金天氏

法性之圖白

後法性之嘆白又九條所

忠通

兼寶 又月輪

英商怡和

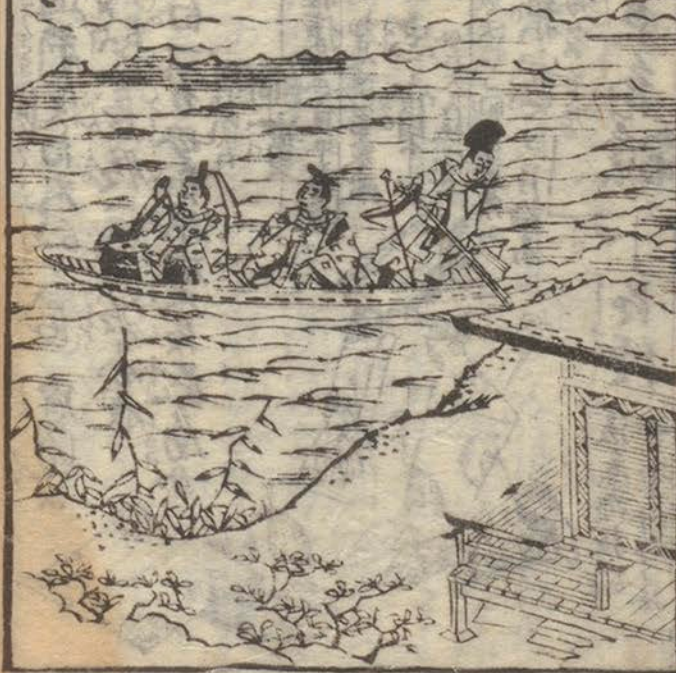
良經

後系極極
母季行知女



和乃系

久松久松久松

[illegible]

何んぞ
 歌とや
 家々
 門々
 日れて
 人々
 あらん
 とぞ



崇徳院 偉仁
 多行院 一白
 母得賢 院 澤子
 公実女 他白 河院
 元永二年 八月九日
 津延同 六月十九日
 親王 保安四年 五月九日
 乃太 子 昂 受 律 吾 家
 同 二月十九日 昂 受 律 吾 家
 大治四年 五月朔日 元服 十一歳



永治元年十二月七日讓位與位十八年

他之七廿二
郎海濱
國玄十二
日於仁和

不崩 年二歲 退号崇德院 二年八月廿六日

崇德院

母待賢門院
第一文身位十八年

鳥羽院

後白門院

予一父在位十二年

近衛院

西善福門院

子六宮文立傳四

ともくはとありふに若小さるゝあらざれても
 来ふを^まれありけりこゝろふてつれてのちわ
 違ふことよりあきても来小あんとおひ
 あたりごとと并あげて思ひふてみづか
 りれてりといふなりと別と成りてつる間
 俣^いせゆとらふ二日といふやうにとあんと
 つきよりあたるゝ又金葉よ
 三日のおぢあげあぬえふれで物^{もの}ちあ
 うへり何^{なん}かふりてよりあつ生^なくとあ

源兼昌

源俊輔二男

入位下

皇族高小姓

宇良天皇 教養親王

雅信 時中 朝臣

仲良 俊輔

昌



河

乃

乃

乃

乃

乃

乃

乃



煉風

卷一

乃

六

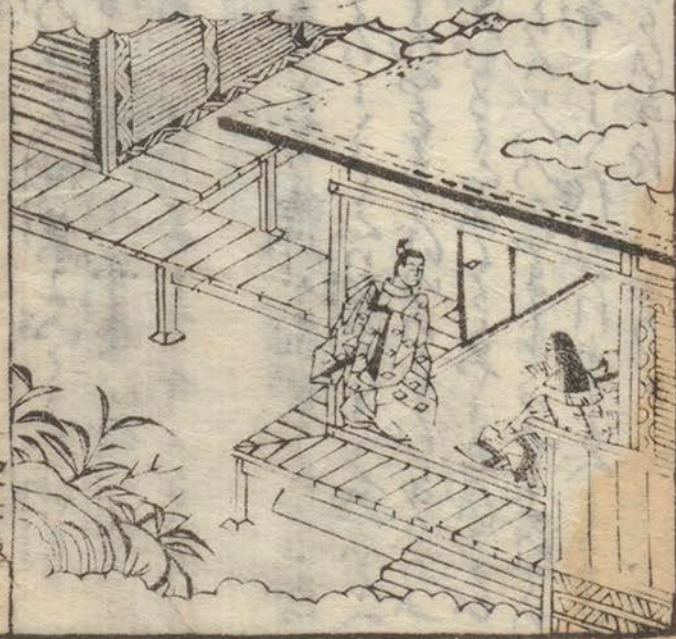
五

月乃

何處

卷之五

[illegible]

[illegible]

待賢門洗馬
新祇伯
與平親王
歌房
歌仲
女



子載集

知

五

21

りて

五

一七

月
光

22

[illegible]

[illegible]

聖太后宮太史倭成

於補之爲子時臥床

後改倭寇安元二年九月十八日

六十三

光緒二十一年南日誌 九十一頁

九十一

去年詔求奇所賜九十雲

通以六明

長家

母之命女大納言云云位
字子子子子又二集

大納言正行

推師中納言三

皇太后宮大夫正三位

忠家

後忠

後成

遊

吳子伯玉

吳一

大系良白子

号二

撰千載集

号小野宮





世中よ

かえり

入る

山乃

兼ど

定長

中務大輔後五位下法良孫

定家

正二位中納言民部卿右大臣兼左大臣

女

竹後具定母の勅撰ハ如シアリ 通具母

何れも世の中よ
 今もあはれ入る
 山乃興ふと世乃
 興ふと世乃興ふ
 と世中よとる
 何れも世の中よ

[illegible]

藤原清輝居士

太皇太后文宣

大里右后文利右進正四位下

唐前代

友無督而位下朱子遷

頤

清

扶續詞彙

大教六位法

[illegible]

顯家

知家

續古今

顯明

三葉公
有之

有季

行家矣

保李

澄博

澄敦



後惠法

後世に傳へし
家藏本あり

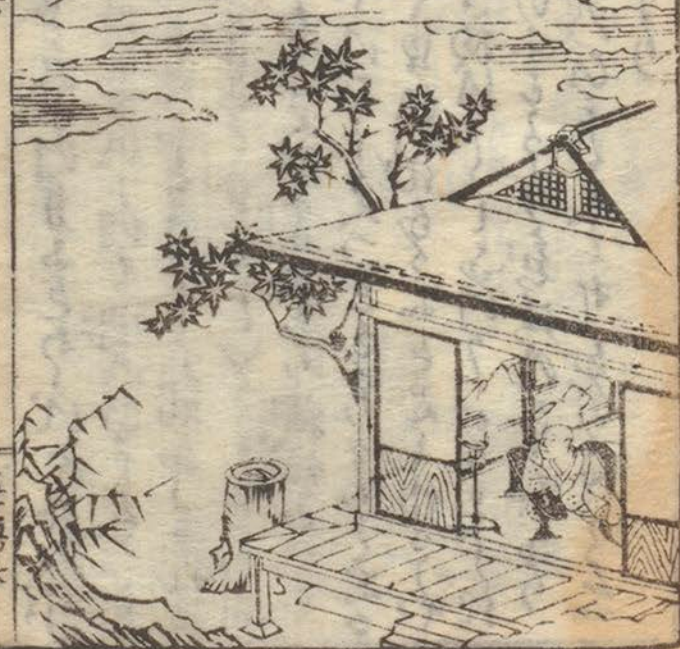
所
一
經

慈乃奇しくもろとま
 へい地ふは乃ありとた
 人ふ、わろわろ乃ひ
 けきふたのひしとろ
 りとあり



千秋義

和名
油
あけ
やせ
移や乃
ひしえ
つぎ
らる



子新集

おきとる

月也




2
8 n

卷之四

卷之四

ふ

2



月乃神の意に六神月おしんてうちあじ
ふおかしき月のみかみは子よりじきも
らう、我あひてくしりか平懐の神と
これ面乃乃麻育ありけくうあふたに
あふたあふたー

世ふあれは物あふりとも月あふりびねえらん
やどり床のまに桂月ふもいそよふもあれ
つとくそとやいおれまひここれふりあ文の仲居
へりまひい何又田舎を橋内ぬ首あ月思性
お換君親の蔵君年一むむが如方へどろこ
ゆかりのしきといゆよりせろふるべー

宗蓮法師

後成 宣長

後海 阿茶

信名定長中勢少胸入通
兼蓮也後成に於て子定を後海
と云ふなり

二年七月九日年

か猶入断去申

同之に退出已依

信は

表傷

敷十

迷地

二五七月九日年
か猶入断去申
同之に退出已依
信は
表傷
敷十
迷地



乃古今

ひ

病

ま

ひね

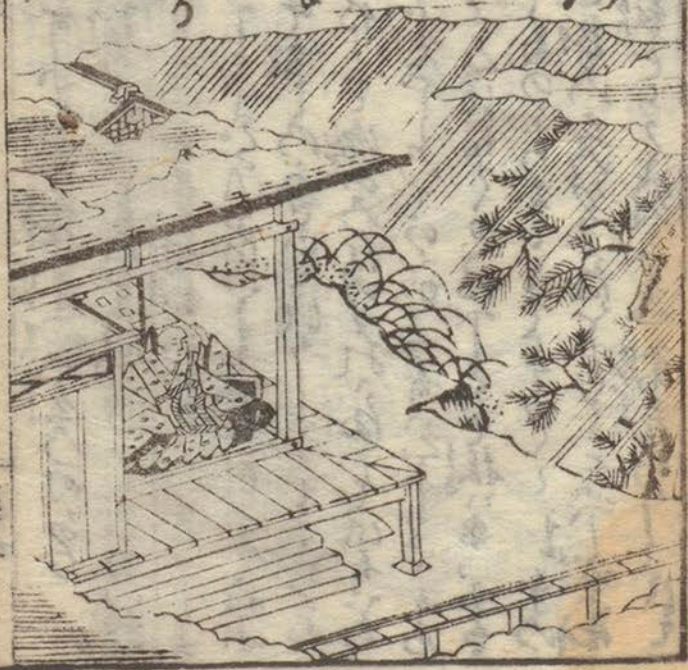
根乃葉

露

うらのり

あきつ

タられ



聯下

璽

[illegible]

皇嘉門院別當源後深女
 皇嘉門院の法性も母白女
 母ハ大姫云ふ事通女
 崇徳院后を東院准母
 作高ハ御代迄くさるる御也

土御門
 皇年親王師房



土產聖藥傳
大綱云
有方所方廣

師澄
母若女
乃居女

師忠
母若女
乃居女

後澄
母大為心
乃居女

女
自來門後列女也



何ふ振返る大長おぼろけの家乃新令り
 縁者まゝとるふはよめ防しるふの難ぬき
 くれぬいさうとを養ふてはるはるの夫
 子にまゝのあゝはるいさひくおのえん
 りりりりり一よゆとをねくもとけり
 やとろふ海とろくおおひもくはるあや
 した新いおのふ人乃あまふはるくとい
 へるたゆぐ一ととくはるさうりそめり
 ちりねりせといさねといとあつれありそ
 美つといふもとけさんすてあねくはる
 こそくといふあまふとくろくあり

A black and white woodblock print illustration of a traditional Japanese building. The building features a thatched roof and a wooden veranda (engawa) with a railing. Inside the veranda, a large, gnarled tree trunk is visible, and a small figure is standing near it. The scene is framed by a simple border.

A black and white illustration of a woman in a kimono sitting on a tatami mat, looking out through a sliding door (shoji) decorated with a floral pattern. The woman is seated on the left, her body angled towards the right. She wears a kimono with a large, stylized floral pattern. Her hair is pulled back, and she has a serene expression. The shoji door is composed of several vertical panels, each featuring a large, stylized floral motif. The background is a simple, textured surface, possibly a wall or a screen. The overall style is traditional Japanese woodblock print art.

んとす

丁酉

乃

神

上

わいふそ

三

三八

か
ろ
す



殷富門院大燔殷富院

八法白虎經一皇女

為痛 歛者 類以

歟者

憲ミナト 朝アサ 憲ミナト 行ユク 憲ミナト

任成（みなり） 五位上本名説種

女
魁星陰陽

女
曰院大補

或說菅原在良女



六 後京橋接政前大政大臣

良經云

系只法性教乃下よる

系品^{しやうひん}は^{しやうひん}の^{しやうひん}教乃^{しやうひん}下^{しやうひん}より

母汪三侯藏書行世

奇

百有八

明くわりの
心算を
乃使
延

氣之入也

名
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

玉ありちやあてとるをわてしと地あり



新古今

三

五

霜人

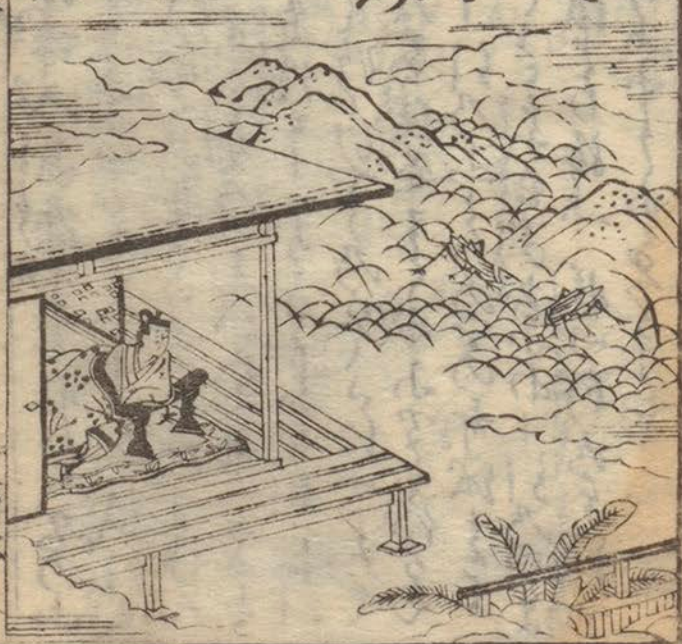
印

1

卷二

卷一

三



又も侍小姓へ床下とわり入るの山
 どりりなれとつふおとろきとて祇儀云
 泥んとなぐいぬ只聖といふり独りもん
 とあつた 中へ金とのもいひ入るか一とを
 何れおとろきとていふるなりとて耳を
 くらめされたりけりやうきとていふなり
 何れおとろきの養使達もくぬおとし候と
 候人なりわい乃山とていふの事候とて
 ぬきやうきとていふる事候とていふなり
 どりりなれとつふおとろきとて祇儀云
 泥んとなぐいぬ只聖といふり独りもん
 とあつた 中へ金とのもいひ入るか一とを
 何れおとろきとていふるなりとて耳を
 くらめされたりけりやうきとていふなり
 何れおとろきの養使達もくぬおとし候と
 候人なりわい乃山とていふの事候とて
 ぬきやうきとていふる事候とていふなり
 どりりなれとつふおとろきとて祇儀云
 泥んとなぐいぬ只聖といふり独りもん
 とあつた 中へ金とのもいひ入るか一とを
 何れおとろきとていふるなりとて耳を
 くらめされたりけりやうきとていふなり
 何れおとろきの養使達もくぬおとし候と
 候人なりわい乃山とていふの事候とて
 ぬきやうきとていふる事候とていふなり

三條院

正三位 賴政 二女
 二系流 後白河 第一皇子

天皇 貞純親王

正四位 賴光

中 賴政

仲政 賴行 女

女 二系流 後白河



ワ
グ
神
ハ

五

ひふ

人々

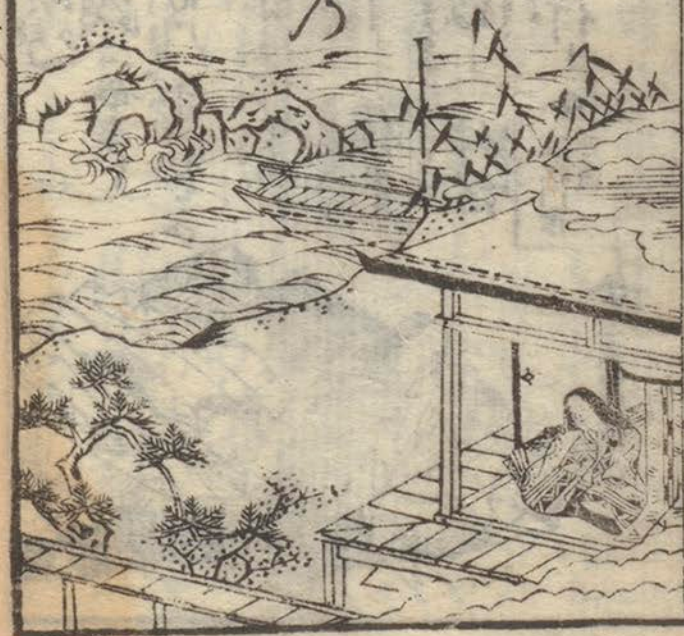
イ
たの
る

人

子

22

三

[illegible]

鎌倉のついでに
 父のついでに
 母のついでに
 父のついでに
 母のついでに

義家 乃義 義朝

頼朝 義朝二男佐治

頼家 佐治大將軍の弟

實朝 佐治大將軍の弟

い 鎌倉右大臣 常盤井頼朝

衣笠のついでに
 衣笠のついでに
 衣笠のついでに
 衣笠のついでに
 衣笠のついでに



世中

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに

ついでに



みう乃
 山
 あにせ
 さま
 あひて
 けい
 えん
 あり



天
 依
 雅
 源

元
 乃
 雅
 源
 乃
 男

形
 乃
 升
 征
 欽
 乃
 乃
 乃
 乃
 乃

忠
 教

師
 實

刑
 乃
 乃
 乃
 乃
 乃
 乃
 乃
 乃

頼
 輝

宗
 長

雅
 源



入道前大いなる
おぼろ

内々居る実家お男
母入道中納言基家女

通孝

大通

実家

信濃門太

云經

号西軍の大いなる又男三系
和禄年達之西を寺



新勅撰

花ささふ

あさふ

ふれ

常

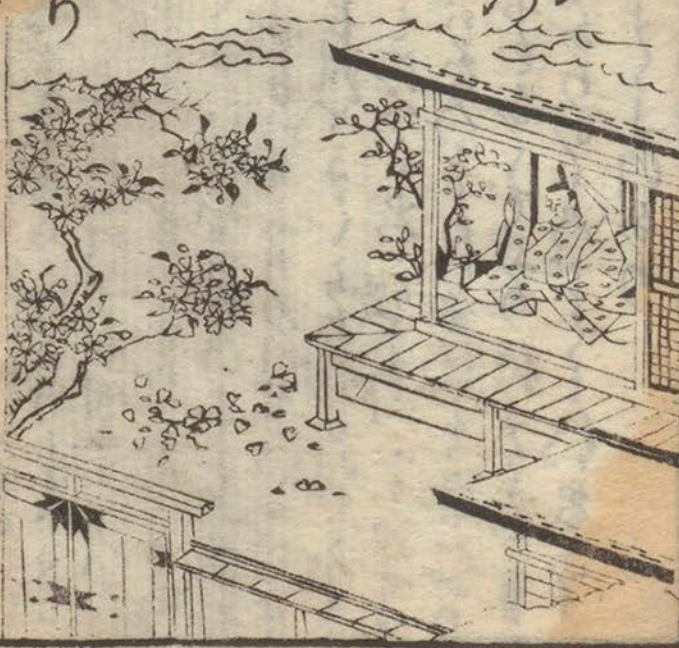
あさふ

ゆりゆ

ゆり

あさふ

あさふ



人色朽
人色
うき
あざき
あき
ゆき
みれり
あ



後鳥羽院 偉なる
も念院中 已あり
母后たな長 依隆女極み
七
治承四年七月十四日 降
壽永二年八月九日 降
建久二年八月三日 降
七月即位 大政宣 文治八年
正月二月 元服 十歳 建久九年
十一月 讓位 十九歳 即位十五年



美久三年七月八日、後醍醐天皇御下、
良然、同日十三日、後醍醐天皇御下、
二月、二日、後醍醐天皇御下、
九月、四日、後醍醐天皇御下、
仁治三年七月八日、後醍醐天皇御下、
後醍醐天皇御下、

仁治三年七月八日、後醍醐天皇御下、
後醍醐天皇御下、

仁治三年七月八日、後醍醐天皇御下、
後醍醐天皇御下、

順德院
律守成

後名院才二回皇子在位十一年

院藏原重子

新刊 龍季女

西曆二年十月五日

方子靈義元二年

十一月十五日交彈

義久三年四月九日懷信
をまゝに記す

同七月奉移訪瀝園

仁治三年九月十二日

年六歲
小兒後回



三

去聲

子

人
三
子

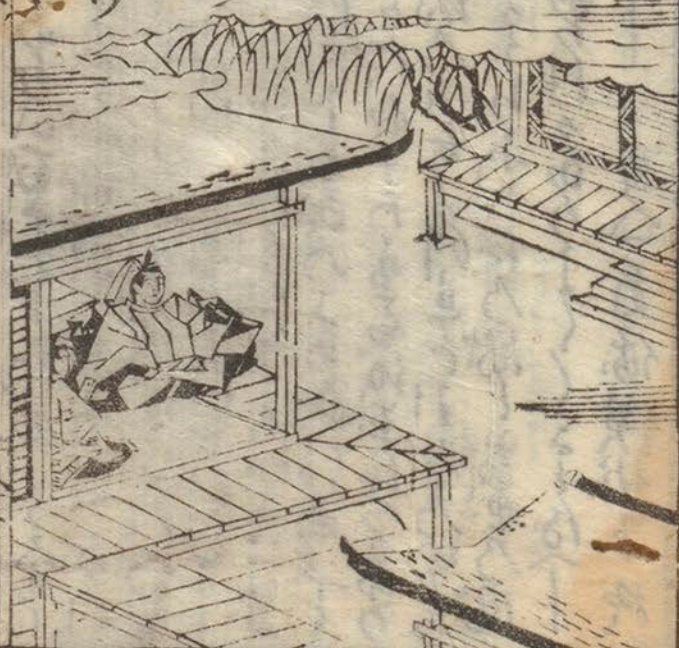
まの
が

子

あふり

わ

ひさ



送つてゐるありい百あやとやせうろろ
 父とてアアアアお初瀬やとつていられ
 子孫乃ふもろろろろろろろろろろろろ
 あけとてろろろろろろろろろろろろろ
 とあふあふいひあふれろろろろろろろ
 乃の上あふれ天下が民乃ろろろろろろ
 りろろろろろろろろろろろろろろろろ
 いれろろろろろろろろろろろろろろろ
 ころろろろろろろろろろろろろろろろ
 一のろろろろろろろろろろろろろろろ
 りろろろろろろろろろろろろろろろろ
 百二首係係おろろろろろろろろろろ

百人一首作者部歌
 天子八人
 天智天皇
 陽成院
 三條院
 後白河院
 親王二人
 元良親王
 親政
 四人
 持統天皇
 光孝天皇
 崇徳院
 順徳院
 式子内親王
 僅述云

法性寺

大長 五人

後系極撥改

河原大長

後連大長

三條右大長
後念右大長

入道前大長

大綱云 二人

公任卿

後任卿

中綱云 八人

出持卿

竹平卿

魚補心

教忠卿

朝忠卿

定頼卿

匡房卿

定忠卿

衣儀 四人

仲磨卿

尊經卿

等卿

雅經卿

北夷儀 四人

道雅卿

歌補心

後成卿

家隆心

八人

在原業平

教行

源宗千

源安方

源俊光

五位 二人

源義孝

地下 十七人

源康秀

源河内

源上

源友幻

大中臣能宣

源宗道信

源清輔

源基俊

大仁千里

王生忠孝

去通列樹

家與風

紀貫之

文房和康

王生忠見

源孫忠

源兼國

女房

源大納言

官女

小野小町

右近

二人

十七人

伊勢

和泉守

清原深吉又

平兼成

清原元輝

源季光

源同三司母

紫式部
 未深赤門
 任勞大卿
 相模
 祐子肉親王
 聖加門院
 二條院
 傷心三人
 遍知
 意圖
 大貳二位
 小或戸内
 清少納言
 月防内
 祐賢門院
 殷富門院
 太彌

喜撰
 惠慶
 良運
 信惠
 藤運
 人壽
 後丸
 補
 以外
 四人
 素性
 能因
 通周
 西行
 赤人
 蛸丸

晉書

父子咸三代入他名細字書

天寶三聖 楊瓌三聖

陽成院 之即親王

後唐羽院 順德院

德德云 敬義孝

法德云開白 後唐羽院 後唐羽院

前大儒正慈圖

魚昭 景性

忠孝 忠見

三條右大臣 物忠

康秀 物康

清輔 物輔

儀成 藤道

定家

云何 定家

和泉或戶 小或戶肉信

紫或戶 大或戶三位

經信 後信 後惠

源高父 元輔 清少納言

☎ 83(943)1368



0010381598

行年

葉平

教基

終章

修習大論

此百人一首、
或或或或
或或或或
或或或或
或或或或
或或或或
或或或或
或或或或
或或或或
或或或或

閑時可補下色

季吟撰

子三丙午年九月事直

皇都書林

三条通柳馬場東南

埭厓仁兵衛

寺町通佛光寺下町

塙屋儀兵衛

44049

延享三丙午年也

皇都

閑暇之時可補て色

行平

業平

秋基

秋基「補記」

修習大補

此百人一首、
繁或助或、
も通し、
産、
新、
男、

